

# この人・ この一冊

市内在住の西尾氏からお借りした一冊。  
姉上と同期で、同じ勤労作業中に被爆死した少女の日記です。  
西尾氏には姉上の最期を詳細に記した文章を寄せていいただきました。



森脇瑠子の日記  
広島第一県女一年六組



細川浩史・亀井博編

『広島第一県女一年六組  
森脇瑠子の日記』  
細川浩史・亀井博編  
(平和文化刊)

## 広島原爆の日

西尾邦彦

昭和20年8月、私は広島市西郊外の廿日市国民小学校3年生。4歳年上の姉は広島市内の第一県立女学校一年生で、市内の真ん中で家屋の強制取壊しに動員されていた。

8月6日朝8時15分、夏休み中なぜか登校していたわが小学校の教室は一瞬雷光のように強い光に包まれた。数十秒後、爆風が教室を襲い、窓ガラスが破れた。あわてて校庭に出てみると、東方の広島市内上空に大きなキノコ雲がわき上がり、次第に大きくなっていた。

何事かと騒いでいるうちに、お昼前、自宅の前に黒塗りの乗用車が停まり、夏だというのにオーバーを着せられた姉が帰ってきた。両親がオーバーを取ってみると姉は真裸で、しかも傷一つ見当たらない。意識も極めて鮮明で、両親は「助かったのか」と安心したようだが、そのうち脇の下、パンツのゴムの下に真皮が見つかるに及んで全身火傷だとわかった。ただ意識は鮮明で「あの医院は焼けたよ」など、両親との対話はほぼ完全だったようだ。しかし、全身火傷では助かるすべもなく、午後3時ごろ家族に見守られて息を引き取った。

午後になると、裸に近い多くの被災者が我が町を通って西方へと流れて行ったが、我らの小学校は当然避難所となり、そこで命を落とした人は数えきれない。

爆心地の真下で被災した姉が我が家まで辿り着けたのは、幸運にも途中で知り合いの車に拾われた故であった。行方不明の親族を探しに市内をさまよって放射能被災者となった人を私は大勢知っている。

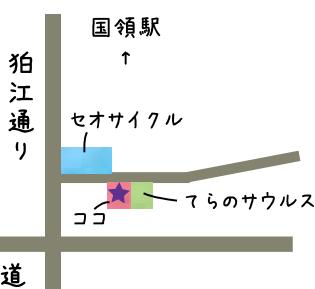
8月15日に終戦語すぐに米国は ABCC という医療施設を市内に造ったが、治療は一切せず、ただ被爆者のデータ集めに専念したという。まったく人間のやることとは思えない大量虐殺にいまだに怒りは消えない。これは完全に人体実験以外の何ものでもない。

## ☆おしゃべりサロンはじめました☆

毎月第4木曜日 10~12時  
(議会の日程などにより変更もあり)

10月は24日(木)です。

国領の事務所でお待ちしています。  
おしゃべりしたいテーマだけお持ちください。  
何となく立ち寄ってみた!  
というのももちろんOKです。



## インフォメーション

### ○市議会主催「議会報告会」

11月16日(土) 14時~  
場所: たづくり 12F 大会議場



### ○おしゃべりカフェ

(第三回定例会の報告会も兼ねます)  
11月20日(水) 10~12時  
場所: 市民プラザあくろす 3F 研修室1

### ○第4回定例会は11月29日(金)から

### ○調布・生活者ネットワークのメンバーになりませんか?

メンバーの素朴な声をもとに研究、調査を立ち上げ、代理人(ネット議員)を通して政策提案をしたり一般質問に繋げたりします。とても楽しいですよ!